

ようこそ
あまねちゃん



さくは わがやで くらす ダックスフンドの おとこのこ。

あるひ パパと ママが いいました。

「こんど、うちに あかちゃんが くるんだよ」

「あかちゃん？」

さくは めを まるくしました。

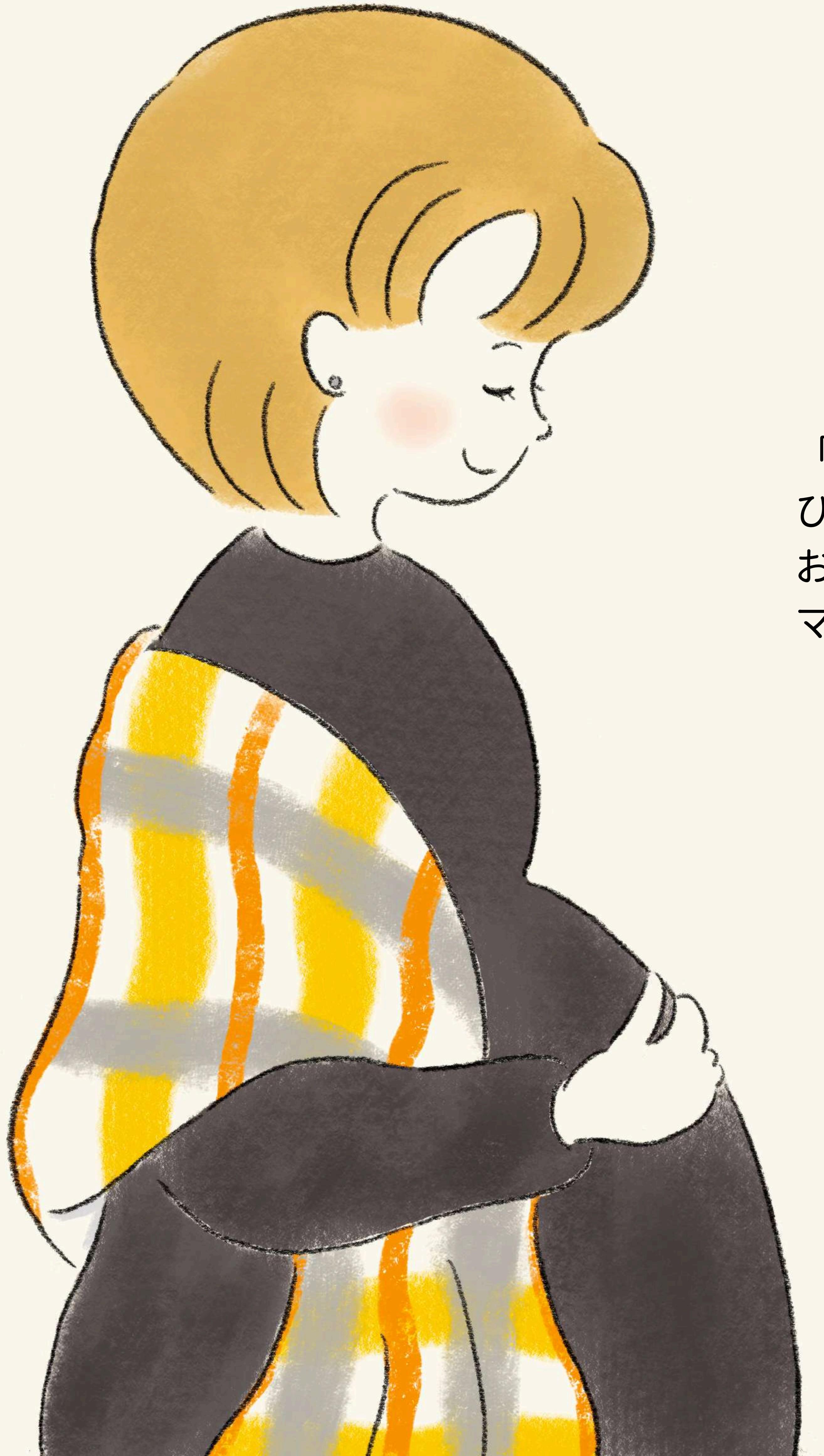
「そうだよ。さくは おにいちゃんに なるんだ」

おにいちゃん！

なんて すてきなんでしょう。



「ねえねえ、あかちゃんは どこから くるの？」
さくが ききました。



「あかちゃんには うんでくれる
ひとが いて、いまは そのひとの
おなかの なかに いるんだよ」
ママが いいました。



「さくも、さくを うんでくれた いぬさんが いて、
このおうちの かぞくに なったよね」

「うんうん！ そうだったね」



「あかちゃんの なまえは なんて いうの？」
さくが また きました。

「あかちゃんの なまえは、あまねちゃんだよ」
パパが こたえます。

「てんのように ひろい ここで、
おとののように ひとに よりそい いやす こに
なってほしいと、うんでくれるひとが
いっしょけんめい かんがえてくれたんだ」


「へえ、とっても すてきな なまえだね」

うんでくれるひとは じじょうが あって、
いっしょには くらせないけれど、
あまねちゃんの しあわせを
こころから ねがっているのだと
パパと ママが おしえてくれました。

「うんでくれるひとは、あまねちゃんには
かわいい ようふくを いっぱい きて、
たのしい おもいでを いっぱい つくってほしいんだって」

「だから さくも、あまねちゃんが うまれたら、
いっしょに あそんであげてね」

「うん、わかったよ」
さくは ちからづよく うなづきました。



あまねちゃん、
うまれてくるの たのしみだなあ。
はやく あいたいなあ。



ママは あかちゃんようの
ようふくを せんたくして



パパは あかちゃんようの
ベッドを くみたてて



あまねちゃんが うまれてくる ひを
いまか いまかと、ワクワクしていました。

ある はれた、さわやかな ひ。

ママに たいせつに だっこされて、あまねちゃんが
おうちに やってきました。

とっても ちいさくて、とっても かわいい
おんなのこです。

「ようこそ あまねちゃん。これから よろしくね」
さくは うれしくて、しっぽを ブンブン ふりました。

あたらしい かぞくが ふえた このひ、おうちは
このうえない しあわせに つつまれていました。



おじいちゃんや おばあちゃん、
しんせきの みんなが やってきて、あまねちゃんが
うまれてきてくれた おいわいを しました。

ごちそうも プレゼントも いっぱい！
みんな ニコニコして、あまねちゃんの たんじょうを
よろこびあいました。



それからは、パパも ママも さくも
なれない あかちゃんの おせわに
まいにち てんやわんやです。

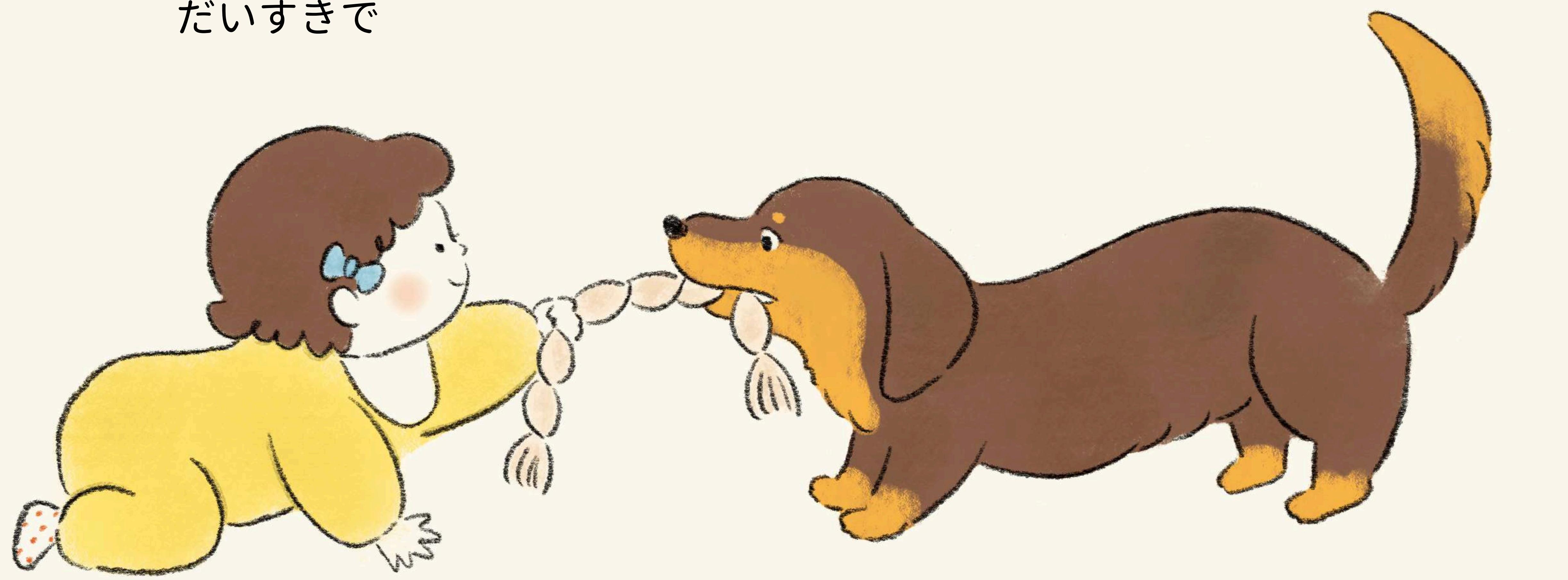
ミルクを あげたり、
おむつを かえたり、
あやしたり。



でも、あまねちゃんが とても かわいいので
みんなで ちからを あわせて
がんばることが できました。



あまねちゃんは からだを うごかすことが
だいすきで



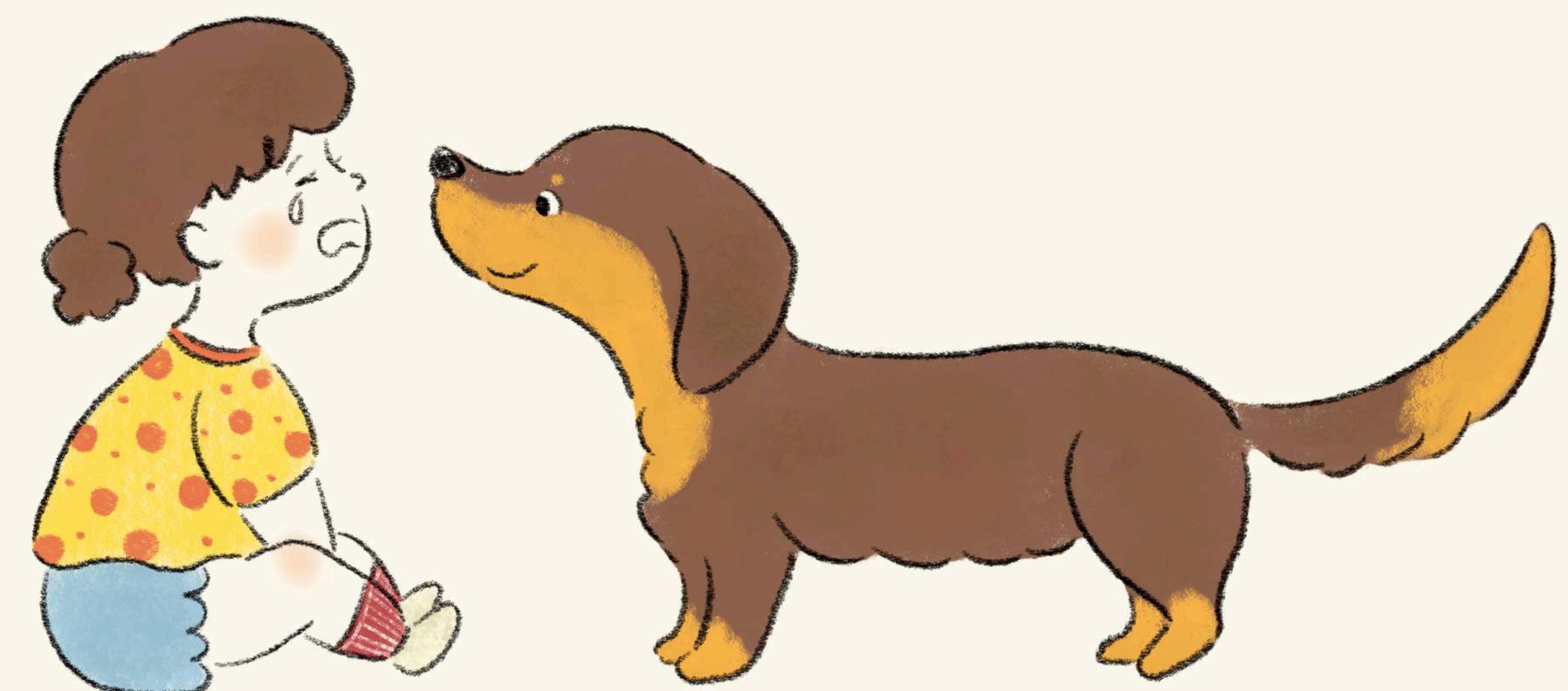
よく うごき、よく たべたら、
ぐっすりと ねむります。



たべることも だいすきです。



あまねちゃんは すくすく げんきに
おおきくなりました。



うんでくれたひとの ねがいどおり、
かわいい ようふくを いっぱい きて、
たのしい おもいでも いっぱい つくりました。

あまねちゃんが きてくれてから、おうちが
もっと にぎやかで、もっと たのしくなりました。

パパも ママも さくも、あまねちゃんのが だいすき。

あまねちゃん、
このおうちに きててくれて、ありがとう。

